

(第3種郵便物認可)

# サイ・テク 知と技の発信 こらむ

[384]

## 埼玉大学・理工学研究の現場

近年、自動車に代わり歩行者に 世界各地で進んでいます。そのよ  
優しいまちづくりが推進されてい うな街を「歩きたい」と思っても  
ます。人口減少時代の持続的な都 らうために、道路も大きな役目を  
市の形として、駅やバス停から徒 果たすものでしょう。歩行者にと  
歩で行ける範囲に公共施設や商業 つて魅力的な道を目指した取り組  
施設など、生活に必要なさまざま みとして、日本でも、車線を縮小  
な機能を集める「コンパクトシテ して歩道を拡張する大胆な改造  
イ」を実現するための取り組みが、や、道路上にオープンカフェや遊



こじま・あや 1983年生まれ。20  
10年9月、埼玉大学大学院修了。博士(学  
術)。国土交通省国土技術政策総合研究所研  
究官、埼玉大学非常勤研究員、助教を経て、  
16年4月から現職。専門は地区交通計画。

# 笑顔の道づくり

小嶋 文准教授

べる場所をつくってにきわいを創  
出するなど、さまざまな活動が行  
われています。

さて、「このように歩行者に優し  
い道路づくりをするにも、限られ  
た空間を分け合う中で歩行者を優  
先すると、他の交通手段を不便に  
せざるを得ない場合もあります。  
道路の改良や新たな施設の設置に  
は費用も発生するでしょう。施策  
の実施に理解を得るためには、ど  
のような効果が得られるのか説明  
することが重要です。道路事業の  
効果を評価する場合、自動車に関  
しては、時間短縮・経費減少・交  
通事故削減という便益が指標とし  
て主に用いられています。しかし、  
歩行者に優しい道の便益には、も  
っと他のことが考えられそうで  
す。

私たちの研究室では、歩行者に  
優しい道の評価にあたって、そこ

を歩く人の「幸せな気持ち」を向  
上させる効果を考えました。安全  
と、被験者実験から数値化し  
て快適に楽しく歩き、おしゃべり  
したり立ち止まって景色やお店を  
見たりする、そんな道路が歩行者  
の幸福感を高める可能性に着目し  
たのです。歩行者の気持ちを計測  
する方法としては、アンケート調  
査が代表的です。ただ、楽しく歩  
いている人にアンケート調査への  
回答を依頼することは、楽しい気  
持ちは邪魔することになりかね  
ず、「早く名物のうなぎを食べに  
行きたいの」と思っている人は回  
答にも影響してしまうかもしれま  
せん。そこで私たちは、歩行者を  
撮影した画像から「笑顔」の度合  
いを調査することで、道路を歩く  
人々の幸せな気持ちを計測できな  
いか検討することにしました。

このような新たな技術も利用し  
ながら、歩く人にとって優しい道  
づくりに貢献できる研究を進めて  
行きたいと考えています。

笑顔を認識してシャッターを切  
るカメラにも利用されている表情  
分析技術が活用されています。